
自宅警備員の異世界記

祀巴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自宅警備員の異世界記

【Nコード】

N2836Y

【作者名】

朧巴

【あらすじ】

元の世界で自宅警備員を9年ほどしている主人公（23 / 職業：自宅警備員）は朝、目が覚めて廊下へと続くドアを開けると知らない部屋に繋がっていた。「え？どうしろと？」ちよつと冷めてるもやし主人公。試しに木の板にチョップしても割れなかつたです。試しにそれっぽいこと言っても何も起こりませんでした。「テンプレートじゃない・・・」

ちよつと過去アリ主人公がファンタジーな世界を冒険しまくる！
なんてことありませんよ。だって仕事は自宅警備員です

からね。でもそのうち致し方なく町へと繰り出すかもしれません。
だって自宅警備員ですからね。え？二丁？聞こえないなあ！

はてさて、これからのんび

り生きますか。

プロローグ

「あ、やっちゃった」

白い髪に黒い瞳を持つ “ ” が言った

「・・・ハア、何をしたんだ」

黒い髪に白銀の瞳を持つ “ ” が言った

「いやさ、どっかのバカが次元干渉魔術を施行しようとしたからそれを妨害してたらさ、やけになつたのかは知らんが生命力削りながら対抗してきてさ。いきなり魔力が上がったから歪みが生まれてさ、、どっかの人間コツチに落としちゃったみ。グハツ!!」

「唯の人間の魔術を止めることすら出来なくなつたのか？ああ？」

「や、マジすんません。 ついでに言ったら前お前が捨てた家に飛ばし。 ブバアッ!!」

「そろそろ器の交代だな。安心しろちゃんとした奴を連れてきてやるからお前は死ね」

「や、俺死んだらお前も死ぬじゃん。なに自殺しようとしてんだよ」

「俺に未練なんぞない」

「潔い!!」

某世界 某空間 某時刻 某場所

偶然必然 真か嘘か ともなくそんな会話が あったことをココに記
しておこう。

プロローグ（後書き）

誤字等がありましたらバンバン指摘してください。

第1話 朝起きたら仕事場が変わっていました(前書き)

プロローグ短かったので連続です。

第1話 朝起きたら仕事場が変わっていました

やけに眩しくて目を覚ましたのをよく覚えている。何故かって？俺の部屋には窓が本来は無いはずだからさ。

だが俺はその時、寝ぼけていた。寝起きはかなり悪い方だと自覚している。だから俺は何も気にせずもそもそと起き上がったのだ。そして、二度寝したいなーとか平和な事を考えていた。

そこら中に散らばっている本やら何やらを踏みつけながら部屋の出入り口へと向かって行ってガチャリ、とドアを開けると長い廊下が・・・無かった。

あれー？とか思った。はは、なんだーまだ寝ぼけてるのかーとかも思った。いや、実際は結構冷静になったのかもしれない。だからこそ、受け入れたくなくてそんな事を考えたのかも知れない。

ともかく扉を開けた先は1DKくらいの広さの部屋だった。テーブルと椅子、暖炉に調理台とおぼしき台。窓も付いてるし、壁には火の付いていない蝋燭もある。

だが、一番目を引かれたのは二つの扉だ。黒で縁取りされ中が真っ黒な扉と、白で縁取りされ中が真っ白な扉。その対称な二つの扉に俺の意識は完全に囚われてしまった。

そう、囚われてしまったのだ。何で家がこんな事になってるんだ、とか

ここどこだよ、とか そういう常識的な疑問もどこかに吹っ飛んで、たった2つの扉に完全に意識を囚われたのだ。

客観的な価値観を持って考えると可笑しいことこの上ない状況だ。

けど、そんな重要な現実になんてまったく目もくれず2つの扉を見続けた。

そして今現在俺はその二つの扉の前で腕組みをして仁王立ちをしている。とりあえずどちらかを開けたいなあ、とか考えている。

好奇心プラスの恐怖心って感じの心情だ。なんか、どっちかがハズレの扉のようにも思える。

さて、問題はどちらを先に開けるか、だ。黒縁か、白縁か……

よし！黒縁だ！行く！俺はコツチを開けるぞ！

ちよつとドキドキしながらドアノブを掴む。腕に力をこめ、そろりと開ける。

中を覗くとそこには本が並んでいた。

本、本、本、本、本、本、本

まさに本だらけ。窓もなく四角い木で出来た箱のような部屋の床に高だかと積まれていた。その迫力にちよつと気圧されながら中へ入った。とりあえず一番近くにあった本を手取る。

表紙を見てその本を落としそうになった。

見た事もない文字だ。字体からして、漢字系統ではない。英語系統でもない。中東らへんで使われている系統でもない。

あれか？古代文字か？それともマジでマイナーな国の字とか？どちらにしろこの本は読めないな・・・なんて意気消沈してパラパラとページをめくる。

すると、なーんかこう・・・違和感を感じるのだ。

表紙へと戻してジーツと見つめる・・・。【世界論】・・・？世界論？・・・？あれ、今、この文字読んだ？え？あれ？

ちよつと混乱しながらページ目を開いてじつと見つめる。

（世界名はリテイザール。これからこの世界の大雑把な成り立ちを・・・）

読めた？今読めた？ あ、読めるの俺？え？コレ知らない文字なんですけど。あれ？本能的なものですかこれ？いや、まあ読めるのはいいんですけどね？なんかこう・・・気味悪いっていうか・・・。

とりあえず読める事が判明した。そして今しがた読んだ文章に疑問を感じた。

（世界名リテイザール）？いや、地球でしょ？もしくはアースでしょ？あれ？俺の知識間違ってる？

え？え？

・・・この本読んだら分かるかな・・・？

とりあえず、この本から分かったことをまとめよう。

世界名はリテイザール。二つの南北に分かれている大陸と海から成り立っている。

南側の大陸名はライノ・ドーチエ。そしてこの大陸には二つの国家がある。ローワとドイルツテである。ローワの方が大きな国で対比的に言えばローワ：ドイルツテ＝3：2くらいだろう。まあ、どちらも大きい。

そして北側の大陸はグイ・ヴァンジュ。3つの国家から成り立って

いる。サイフェ、ピドジー、サングロウサである。大きさの対比はサイフェ：ピドジー：サングロウサ＝3：2：5てな感じである。

そして、世界には【魔力】と呼ばれる力が満ちているらしい。どこからわき出ているか知るものはいないようだ。

ともかく、この【魔力】が世界の原動力であり、【魔力】を使った【魔術】は全ての人が使えるものである。だが、常人では小さな明かりを出す、とかちよつと水を出すくらいしか出来ないらしい。才能があるものは【魔術】で大きな火の塊を出したり、風を少しばかり操ったり出来るらしい。傷を治す、という【魔術】もあるらしいが、そんな事出来るのは、ほんの一握りの才能ある者らしい。

そして、世界には様々な種族が存在する。とにもかくにももつともポピュラーな『人』の他に、『獣族』『魔族』『竜族』『他人族』『精霊族』などなどだ。名前からして分かりやすいものの説明は省く。

『他人族』というのはたとえば、小人であつたり、という、他の種族に属さないものの総称である。

そして世界には【理】があるようだ。

【理】は、いわば覆らない自然の定理、というやつだ。何個かあるがいくつかだけを挙げてみる。

一つ、人は再蘇生されない

あたりまえだ！とツツコミを入れた俺は悪くない。

一つ、【魔術】とは【理】を覆すことができない

まあ、たぶんどんな【魔術】でも人を生き返させることはできない、てな感じだろう。

一つ、【魔力】とは である

いや、変なシミで見えなくなってるんだよね。いやまあ、確かにポロツチイ本なんだけどね。

そして一番意味が分からない理が一つある

一つ、【理】と【源】は一つの存在であり、唯一無二であることを定義する。

【理】が崩壊すれば【源】は消滅し、【源】消滅すれば【理】は崩壊すると定義する。

なにこれ？って思った。【理】？【源】？ 【理】はさっき書いてあった自然の覆らない定理、ってことだと思つ。なら【源】は？

うん。分からん。

そうだよ、第一俺は今自分に起きている現象すら分かっていないのだから！

と、（この不思議な現象を体験してから）はじめて正常な常識を取り戻した瞬間だろう。

一旦本を元の場所に戻してその部屋を出た。うん。まったく変わって無いな。

とりあえずテーブルとセットの椅子に座って状況整理をすることにしました。

ここが家で無いことは理解した。だって俺の家にこんな部屋ないし。そしていくつかの可能性が浮かび上がってきた。

- 1、拉致られた
- 2、実はドッキリでした！
- 3、友達の悪ふざけ
- 4、ものすごい寝相で知らない家の自分の部屋に似たところにたどり着き爆睡

・・・3、4は無いな。うん。俺そんなに寝相悪くないし。むしろいい方だし。そし3は絶対じゃない。なぜかって？中学2年の夏休みあたりから自宅警備で忙しかったと言えればわかるだろうか？・・・
・まあ、そんな話は置いておいて。

残るは1か2・・・。2、も、、無いかな。うん。そんな企画に選ばれるような人間でもないしな。うん。

1、、、拉致ねえ・・・意味がないしなあ。だって両親っていつか身内皆無だし。

1も無いような気がするんだよなあ・・・。

あれ？消去法でいったら全部消えたぞ？あれ？

第1話 朝起きたら仕事場が変わっていました(後書き)

誤字訂正指摘お願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2836y/>

自宅警備員の異世界記

2011年11月16日18時46分発行